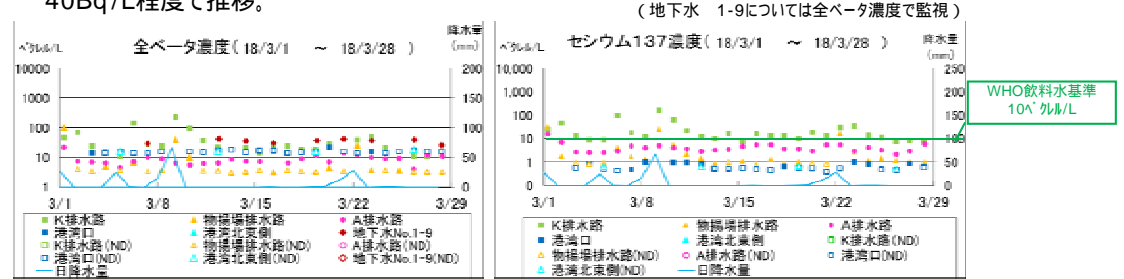


- 前回(3月1日)以降のデータ公開数は約12,000件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約12,000件を公開しました。
- 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定
1号機では、2017年12月19日、カバー柱・梁取り外し改造、防風フェンス取付等工事を完了し、2018年1月22日より原子炉建屋上部にあるオペレーティングフロアのガレキ撤去を行っています。2号機では原子炉建屋屋根保護層の撤去、3号機では燃料取り出し用カバーのドーム屋根が完成しました。1号機のがれき撤去開始後も、これまで同様、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定
3月は降雨が多く、特に8日から9日にかけて約80mmの降雨がありました。港湾のセシウム137濃度に上昇が見られましたが、降雨後は速やかに低下しています。引き続き、排水路の清掃や敷地全体の除染を行うとともに、港湾内の水質を監視していきます。
- A排水路を港湾内に付替
多核種除去設備等を設置しているエリアの雨水等は港湾外へ排水していましたが、リスクを低減するため、3月26日に排水先を港湾内に変更しました。モニタリングで有意な変動は確認されていません。

A 水(海水、排水路、地下水等)

- K排水路では、降雨時にセシウム137、全ベータ濃度が上昇。
- セシウム137は、K排水路を除き、概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。
- 10月の台風後に、地下水No.1-9で全濃度が100Bq/L程度まで上昇したが、海側遮水壁の内側であり、外部への影響は無いと考えられる。11月以降濃度は低下し、12月は50Bq/L程度だったが、1月以降、30~40Bq/L程度で推移。



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質、カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。

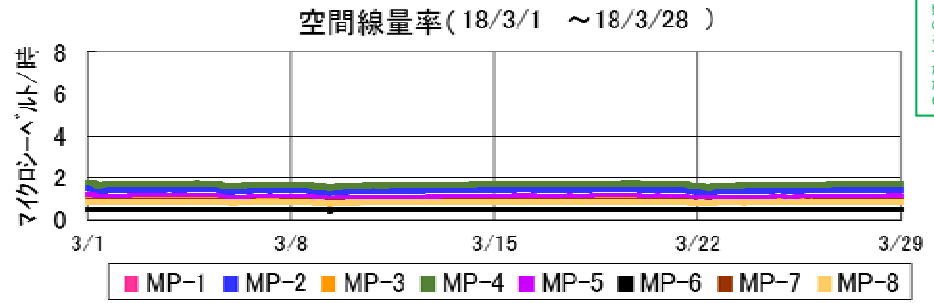
海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。

(ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

3月26日までのA排水路は旧A排水路のサンプリング地点(5,6号排水路側)、3月27日以降は、付替後のサンプリング地点で採水。

B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

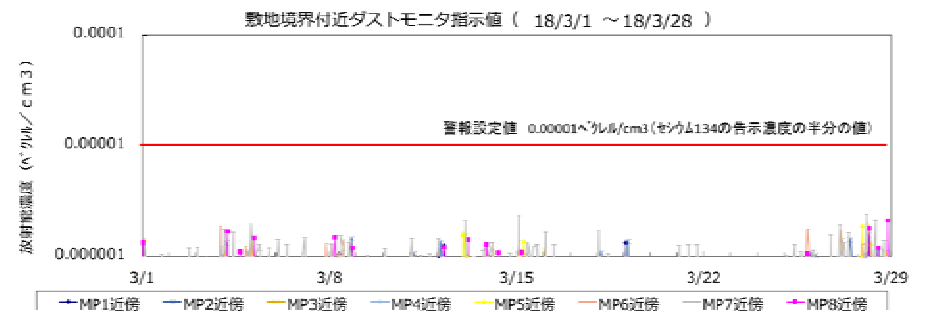
- 低いレベルで安定。



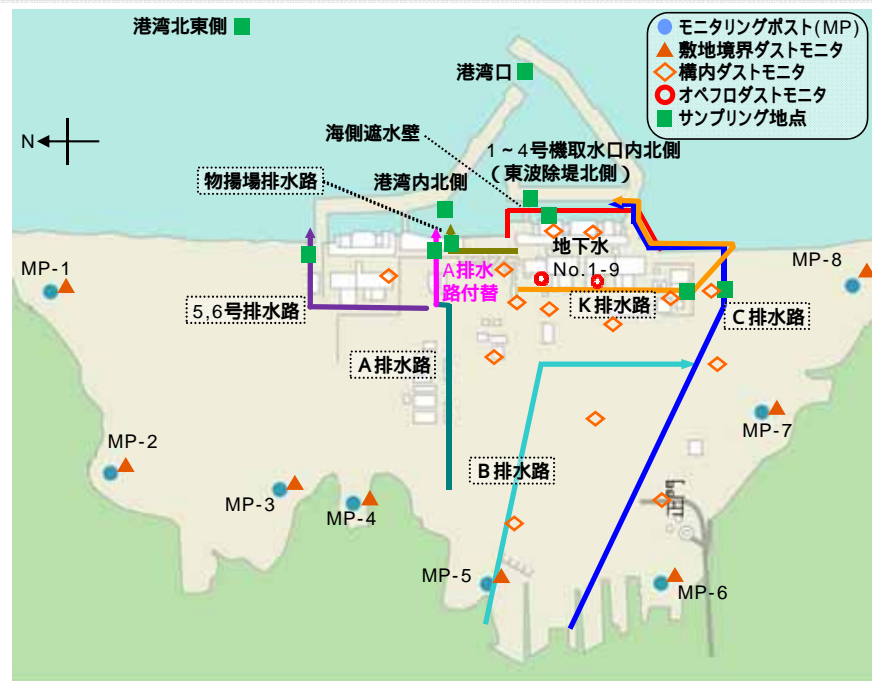
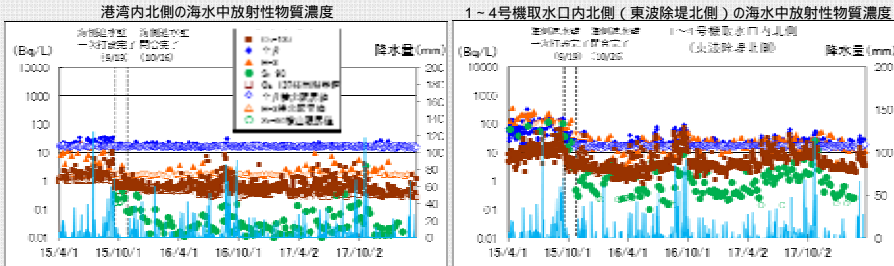
敷地境界における1時間あたりの線量率を3マイクロシーベルトとすると、例えば1ヶ月間この場所で作業を行った場合(1日あたり8時間、20日間作業をしたと仮定)の被ばく線量は約0.5ミリシーベルトになります。

C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。



告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度、国内の原子力施設共通の基準。

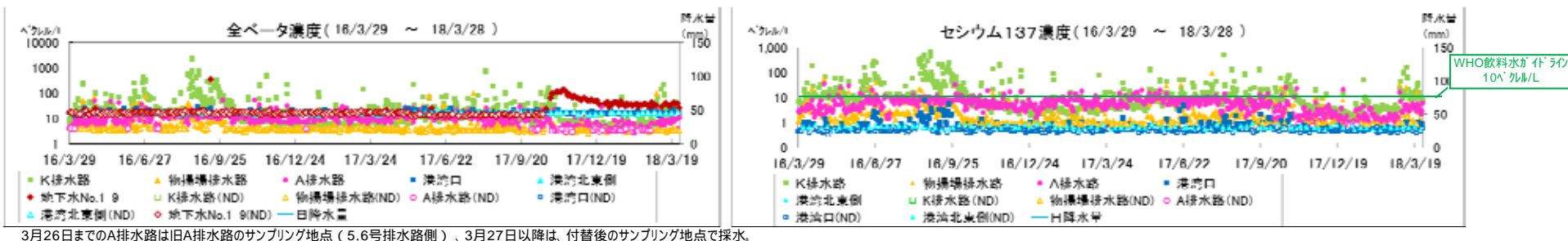


データ採取位置図(右のグラフA、B、Cは抜粋)

放射線データの概要 過去の状況

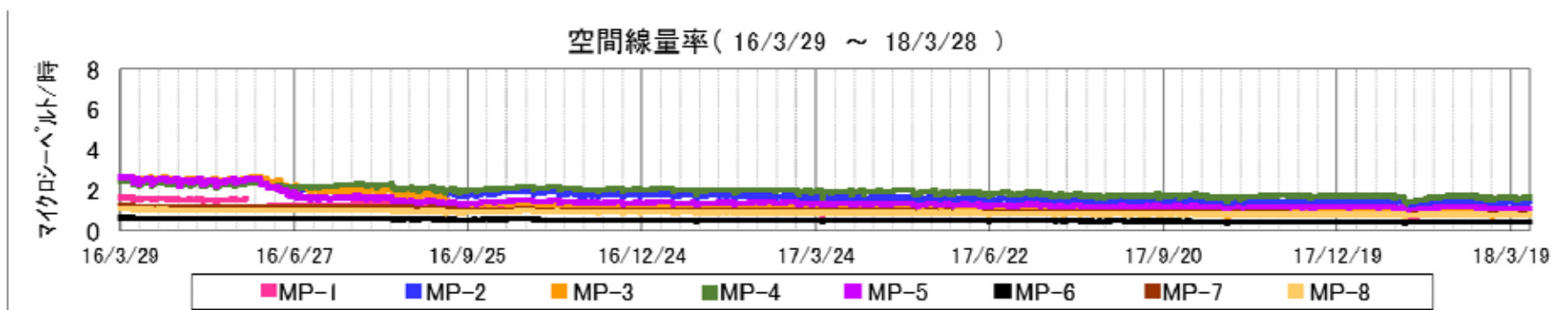
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。



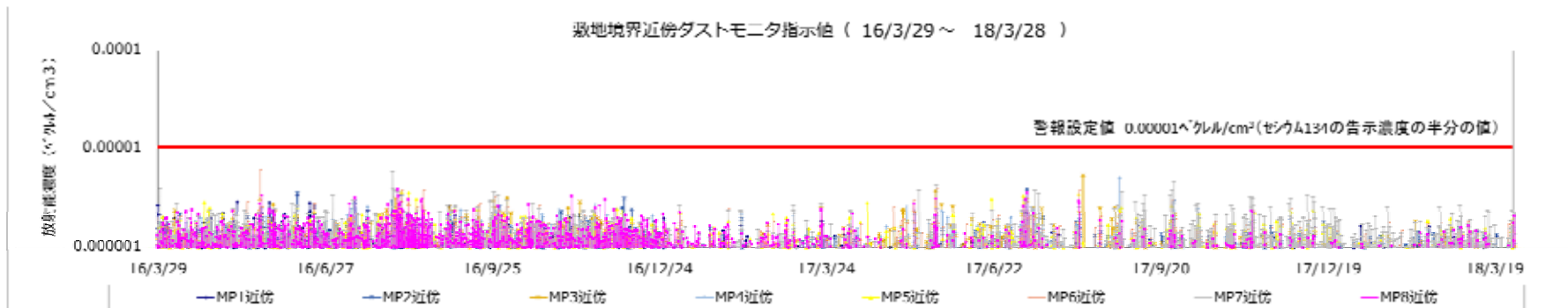
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

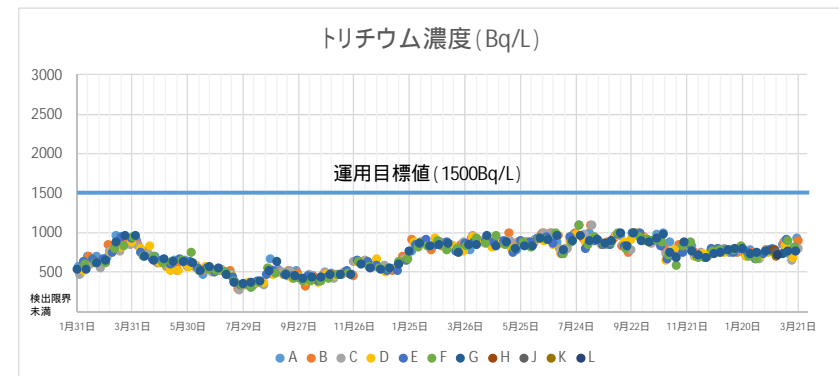
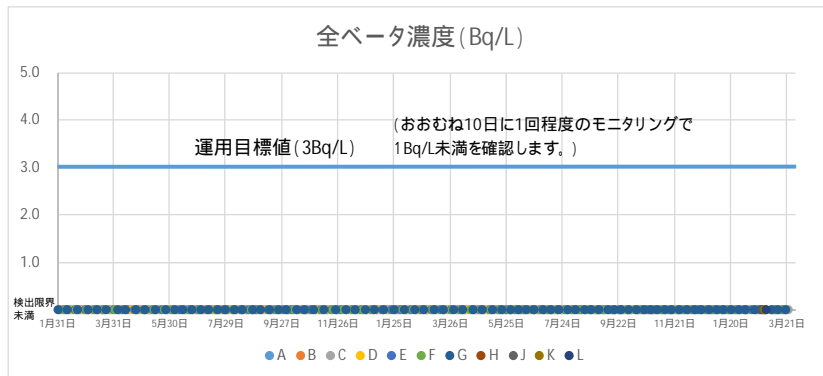
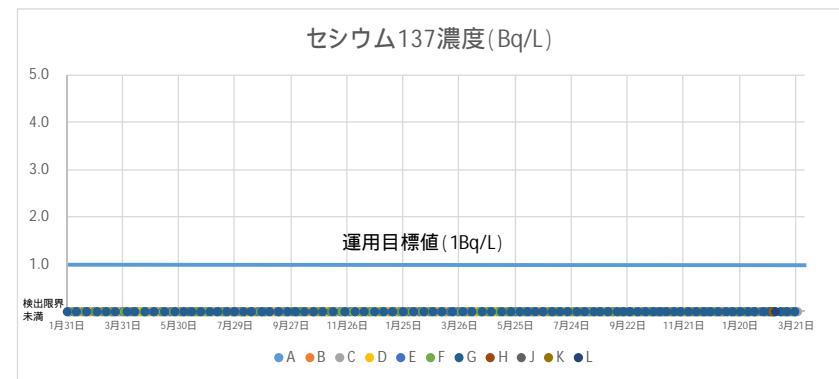
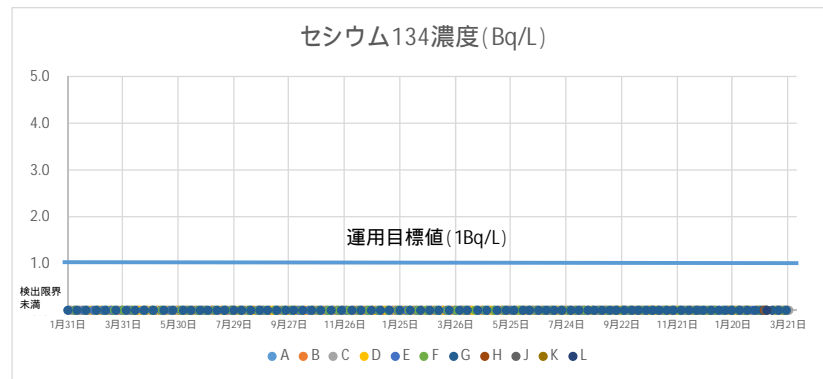
一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認しました。

同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2018年3月26日までに合計659回、509,368m³を排水しました。

重層的な汚染水対策の一つとして、降雨の土壌浸透を抑える敷地舗装（フェーシング）等と併せてサブドレン処理系統を強化するための設備の設置を行っており、3月中に供用を開始するための準備が完了する予定です。これにより、処理容量を増加させ信頼性を向上します。

今後も、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底してまいります。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

1号機原子炉建屋上部のガレキ撤去作業について

- 1号機では使用済燃料プール(以下、SFP)内の燃料取り出しに向けて、2018年1月から原子炉建屋上部にあるガレキ(北側)を撤去しています。
- これまでに様々なダスト飛散抑制対策を実施し、1号機は姿を変えてきました(①)。ガレキ撤去においても、作業進捗に伴いモックアップ試験を行い、屋根鉄骨分断作業時の振動がより小さい装置に計画を変更(カッター→ワイヤーソー)する等、**ダスト飛散リスクをより低減すべく、ガレキ撤去装置の工夫も続けています(②)**。徹底したダスト飛散抑制対策(③)を講じた結果、建屋カバー解体ならびにガレキ撤去においても、ダスト飛散による警報発生や環境に影響を与えるトラブルは発生していません(④)。
- クレーンで吊った各種ガレキ撤去装置を、**遮蔽された遠隔操作室内から遠隔操作することで、作業員の被ばくを低減しています。**(作業場所雰囲気線量率：建屋周辺200 μ Sv/h程度→遠隔操作室1 μ Sv/h程度 [1日の作業員一人あたりの作業時間は4~5時間程度])
- また、今後予定している中央部および南側のガレキ撤去と並行し、**南側ガレキ撤去の際に、ガレキ等がSFP内へ落下してSFPおよびSFP内に保管する燃料の損傷防止・影響緩和を目的としたSFP保護の検討を進めています。**
- 今後も、徹底した飛散抑制対策と、ダスト飛散状況の監視を行いながら、また、作業進捗に応じてより安全で着実な手段を取り入れながら、環境への影響・社会の皆さまにご心配を与えることなく作業を進め、福島第一原子力発電所のリスクを低減していきます。

① 1号機外観の変遷



② 主なガレキ撤去装置



③ 徹底した飛散抑制対策



④ ダストモニタの設置地点(モニタリングポスト)

